

第1章 目的と位置付け

1 背景と目的

○ 背景

- 市内には文化財として指定・登録されているもの以外にも貴重な文化財が多く存在しているが、把握がなされないまま失われ、様々な分野で活用されていない状況が危惧。
- こうした背景を踏まえ、令和2年2月に「札幌市文化財保存活用地域計画」(※) (以下「第1期計画」という。)を作成。計画期間である令和2年度(2020年度)から令和6年度(2024年度)まで、文化財の保存・活用に関する取組を実施。
- 第1期計画期間中に示された国、北海道、市における計画等でも、文化財の保存・活用の取組により、魅力あるまちづくりを進め、札幌市の文化財を将来に継承していくことが、今も変わらず求められている状況。
- 令和6年度(2024年度)末で、第1期計画が終了。第1期計画期間中の取組内容の評価検証を踏まえ、「第2期札幌市文化財保存活用地域計画」(以下「第2期計画」という。)を作成する。

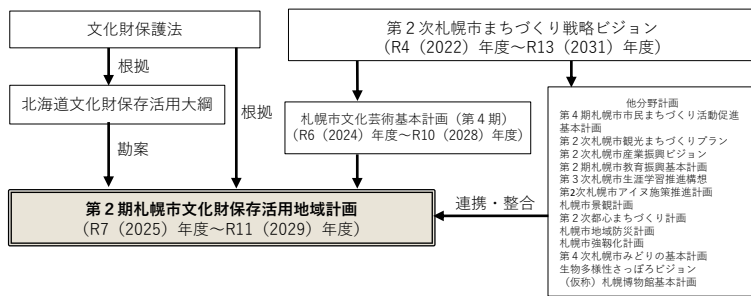
※「文化財保存活用地域計画」とは：市町村における文化財の総合的な保存と活用に係る計画。文化財保護行政の中・長期的な基本方針を定めるマスタープランと、短期的に実施する具体的な事業を記載するアクションプランの二つの役割を担う。文化庁長官の認定が必要

○ 目的

文化財や歴史文化の価値と魅力を多くの市民が共有し、大切に使いながら将来に継承していくことで、市民にも来訪者にも魅力あるまちづくりを進めるための基本的な方針を示す。

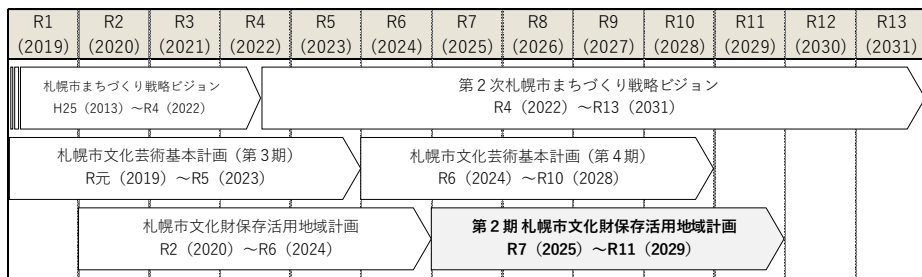
2 位置づけ

「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」、「札幌市文化芸術基本計画(第4期)」を踏まえた、文化財の保存・活用の基本計画



3 計画期間

令和7年度(2025年度)から令和11年度(2029年度)までの5年間



第2章 札幌市の概要

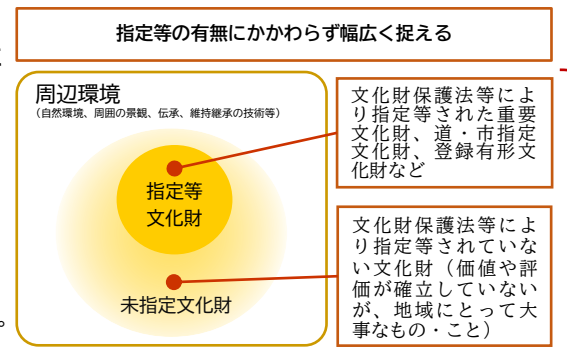
- 1 自然環境・地勢** 札幌市の位置、気候、地形・地質、植生
- 2 社会的環境** 札幌市の人口、市域の変遷、交通、関連施設
- 3 歴史的環境** 札幌の旧石器文化から近現代までの札幌の文化財等に関わる出来事

第3章 札幌市の文化財

1 文化財の把握の方針

○ 文化財を的確に把握するために

- 文化財保護法等による指定等にかかわらず、地域の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた資産を「文化財」として取り扱う。
- 文化財保護法による分類が困難なものなど、周辺環境との結びつきにも着目して幅広く把握。



○ 文化財の分類方法

- 文化財保護法等により指定等された文化財 ⇒ 文化財保護法上の分類方法で整理
- 未指定文化財 ⇒ 札幌市独自の分類で整理

2 文化財に関する調査の概要

○ 既往調査の整理・近年の調査・把握調査の整理分析

- 近年では、平成27年度から建築物・土木構造物に関する調査を実施し、指定、登録文化財の該当性について分析を実施

文化財の指定・登録状況 (R6.10月時点)

類型		国		道		市		計	国	登録	合計
		指定等	指定	指定	指定						
有形文化財	美術工芸品	建造物	8	2	3	13	26	39			
		絵画	0	0	0	0	0	0			
		彫刻	0	0	1	1	0	1			
		工芸品	2	0	0	2	0	2			
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0			
		古文書	0	0	0	0	0	0			
		考古資料	0	1	1	2	0	2			
歴史資料	1	1	3	5	0	5					
無形文化財		0	0	1	1	0	1				
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	0	0	1	0	1				
	無形の民俗文化財	1	0	0	1	0	1				
記念物	遺跡	2	0	2	4	0	4				
	名勝地	0	0	0	0	0	0				
文化的景観	動物、植物、地質鉱物	2	0	0	2	0	2				
		0	-	-	0	-	0				
伝統的建造物群		0	-	-	0	-	0				
合計		17	4	11	32	26	58				

3 文化財の現状

○ 指定等文化財

指定等文化財は58件。
近代以降の建築物が多く、大半を札幌市、北海道、北海道大学が所有

○ 未指定文化財

- ・ 既往調査報告書、市民アンケート、第1期計画策定時にパブコメ等から未指定文化財を把握
- ・ 未指定文化財の中には、札幌市地域文化財認定制度、さっぽろ・ふるさと文化百選など、文化財保護法等以外の制度により認定等をされたものを含む。

大分類	中分類	属性	件数
不動産	景観要素	建築物・工作物、自然物、植物、公園、道、橋、遺跡 など	1,785
	空間要素	地割、道筋、川筋 など	90
動産	有形要素	用具・道具、食・料理、遺物、文献・資料、美術工芸品 など	277
	無形要素	民俗・伝承、技術、言葉、人物・団体 など	87
合計			2,239

第4章 札幌市の歴史文化

1 札幌市の歴史文化の特性

○ 歴史文化の整理の考え方

- ・ 空間的観点（自然環境や地形など）・地域社会的観点（社会を大きく変えた出来事など）・歴史的観点（歴史文化の時代を超えた継承）から、**6つの特性を整理**
- ・ 上記6つの特性以外にも、第1期計画作成時の市民ワークショップなどで話し合われた歴史文化も整理

2 関連文化財群の考え方

○ 関連文化財群

関連文化財群とは、**文化財とその価値を形成する様々な要素（周辺環境）とを一体のものとして捉えたもの**

○ 札幌市の関連文化財群の考え方

- ・ 歴史文化の価値を市民とともに見出し、それらを札幌の魅力資源として総合的に保存・活用するための枠組に**関連文化財群の考え方**を用いる。

■ 札幌市の関連文化財群を設定する際の要件

- ・ 札幌の歴史文化の特性をよく表す文化財群の一つのまとまりとして捉えることで、札幌の個性や魅力がより際立つようになるもの
- ・ 大人から子どもまでが楽しめるストーリーによって説明され、札幌の歴史文化についての魅力のPRや、理解の促進に貢献するもの
- ・ 市民が愛着や誇りを感じ、自ら守り伝えていきたいと感じ、その魅力を誰かに伝えたいと感じるもの

札幌市の歴史文化の特性

- ① 先史から育まれた人々の暮らし
- ② 幕末に始まる諸村の開拓と開拓使による中心市街地の建設
- ③ オリンピックで変わった街の姿と市民の意識
- ④ 都心で楽しむ季節の催し・風物詩
- ⑤ 積雪寒冷地に成立した大都市
- ⑥ 継承されるアイヌ文化

市民ワークショップ等で話し合われた歴史文化

- ① 各地に設けられた屯田兵村
- ② 今も親しまれる地産建材
- ③ 「馬鉄」に始まった路面電車
- ④ ななめ通りから見る札幌村の歴史
- ⑤ 手稲山麓に残る鉱山村の記憶
- ⑥ 水の恵みに支えられた西区の稲作文化
- ⑦ 日本酪農の父が残した足跡
- ⑧ 歩兵第25連隊のまち月寒

令和5年度までに設定した関連文化財群

設定年度	番号	関連文化財群	関連する特性
令和2年度	1	札幌の都市軸となった慶応2年のインフラ「大友堀」 - 亀太郎の精神と「札幌黄」の隆盛	②、④
	2	浮かび上がる「開拓使」の遺産 - 札幌のまちづくり・ものづくり	②
	3	札幌軟石4万年の旅 - 地史を揺るがす大噴火から「カワイイ」まで	②、⑤
令和3年度	4	縄文と札幌 - さっぽろの縄文を追う	①
	5	「札幌オリンピック」の遺産が伝える近代都市への歩み - 五輪によって新たにデザインされたまち・札幌	③
令和4年度	6	札幌の季節を満喫する - 自然と人が織りなす豊かな四季	④
	7	雪や氷と共にある暮らし - 厳しい冬を克服し、利用し、楽しむ	⑤

第5章 文化財の保存・活用の方針

1 保存活用の現状

○ 札幌市による文化財の保存・活用

文化財の保存（建造物の修繕等）、文化財施設の活用（時計台・豊平館等の管理・運営）、埋蔵文化財の保存・活用（発掘調査・出土品の展示等）、文化財に関する情報発信（公式HP等）、景観計画に基づく施策（景観重要建造物の指定等）等

○ その他の公的機関による文化財の保存・活用

行政及び教育研究機関の取組み/例：北海道・北海道大学（所有文化財の公開、情報発信、博物館の運営等）

○ 市民団体や事業者等による文化財の保存・活用

民間の活動/例：NPO法人歴史的な地域資産研究機構（調査研究、関連資料のアーカイブ化、まちづくり活動等に関する助言）、北海道遺産 等

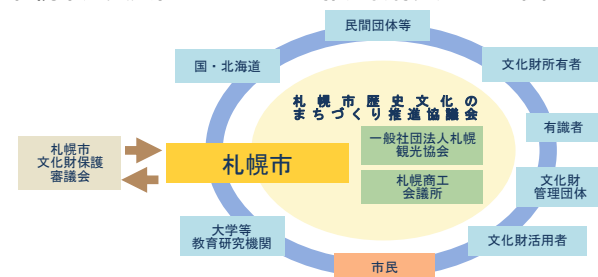
2 文化財の保存・活用の推進体制

○ 行政・行政以外の体制と役割

主体		役割
行政	市民文化局文化部文化財課が中心・庁内関係部局と連携	文化財の保存・活用の方針を示す など
有識者	大学その他の教育研究機関、専門知識を持った個人や団体等	専門知識から修理方法や活用の際の助言や指導 など
文化財所有者	文化財を所有する個人や団体等	所有する文化財を適切に次世代へ継承する など
民間	文化財を保存・活用する取組を行う団体や企業	文化財を活用した事業の展開 など
市民	札幌市民	身近な文化財に関心を持ち交流の輪を広げる など
協議会	札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会	計画推進のための取組を実施 など

○ 連携・協働を促す体制づくり・札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会による取組

- ・ 計画の目指す姿の形成に寄与することを目的として、札幌市、一般社団法人札幌観光協会、札幌商工会議所を構成団体として令和2年3月に「**札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会**」を設立
- ・ 第1期計画期間中、協議会にて、様々な取組を実施



主な事業の概要	実施年度
7つの関連文化財群及びストーリーを設定	令和2~4年度
関連文化財群及びストーリーに関するボランティアガイド講習会の実施	令和3~4年度
文化財等の価値や魅力を伝えるシンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」を開催	令和2~5年度
文化財等の価値や魅力、活かし方等を考える市民ワークショップを開催	令和2~5年度
案内人と歴史文化のスポットを巡るモニターツアーを実施	令和3~4年度
関連文化財群の周遊促進パンフレット「さっぽろ文化財散歩」を作成	令和2~5年度
札幌観光情報サイトの「ようこそさっぽろ」に関連文化財群の情報掲載	令和4~5年度

○ 防災・災害時に関する体制

- ・ 市有文化財について、警備の実施・文化財防火デーに合わせて消防訓練の実施
- ・ 被災時は北海道への被害状況の報告し、指導、助言を受けながら、国立文化財機構文化財防災センターへの救援依頼など、救援・復旧体制の構築を行う。

3 第1期計画取組の評価検証

○ 文化財関連施設利用者数

- 主な文化財関連施設の利用者（観覧者）数は、計画策定前（令和元年度）の528,834人から、令和5年度は570,751人に増
- 時計台、豊平館等の増により、利用者数全体数は、計画策定前よりも増加したものの、施設ごとでは利用者数が減少したところが多い。

○ 文化意識調査の結果

文化意識調査とは：札幌市が、市民の芸術や文化財等に関する意識（関心度やニーズ等）を探ることを目的に実施。15歳以上の市民から無作為抽出した5,000人に対する郵送アンケート（令和4年度までは「文化芸術意識調査」という名称で実施）

ア 札幌市内文化財認知度

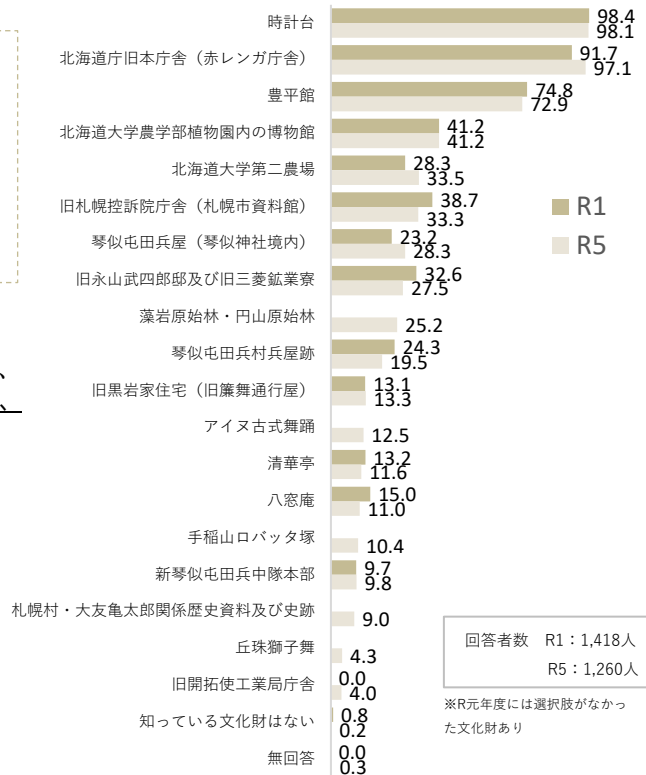
- 令和5年度調査では、「時計台」（98.1%）、「北海道庁旧本庁舎（赤レンガ庁舎）」（97.1%）が非常に高く、次いで「豊平館」（72.9%）の順に認知度が高い。
- 令和元年度と令和5年度で比較しても、大きな差はなし。

■文化財関連施設利用者（観覧者）数（R1-R5）（人、%）

関連施設	年度	R元※1 (2019)	R2 ※2 (2020)	R3※3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R5-R1 増減	対R元比
時計台		244,752	82,017	89,648	239,530	290,225	45,473	18.6
豊平館		21,062	19,548	15,070	28,081	36,743	15,681	74.5
八窓庵		7,526	4,799	1,946	5,934	7,215	▲ 311	▲ 4.1
旧永山武四郎邸		43,185	28,325	19,277	46,156	47,551	4,366	10.1
清華亭		7,786	2,804	1,953	5,616	(※4)535	▲ 7,251	▲ 93.1
琴似屯田兵村兵屋跡		5,626	4,091	2,540	5,071	5,523	▲ 103	▲ 1.8
新琴似屯田兵中隊本部		2,598	1,416	731	2,810	2,891	293	11.3
札幌村・大友亀太郎関係資料及び史跡		4,074	1,358	846	1,952	1,956	▲ 2,118	▲ 52.0
旧黒岩家住宅		2,802	1,572	509	1,001	1,120	▲ 1,682	▲ 60.0
丘珠縄文遺跡		60,253	25,060	9,881	42,372	50,776	▲ 9,477	▲ 15.7
旧札幌控訴院庁舎		129,170	58,423	61,632	108,327	126,216	▲ 2,954	▲ 2.3
合計		528,834	229,413	204,033	486,850	570,751	41,917	7.9

※1 R2.3.1~3.31まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※2 R2.4.14~5.31まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※3 R3.5.4~7.11、7.23~9.30まで新型コロナウイルス感染症の影響のため休館
 ※4 R5.5.1~R6.4.21まで、耐震保全改修工事のため休館

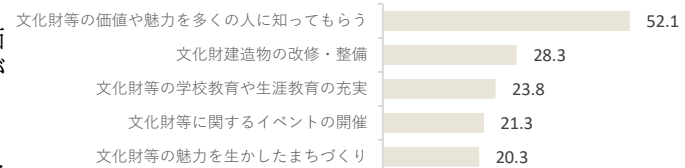
■札幌市内の文化財の認知度（R1-R5）（%）



イ 文化財等の継承等の取組・参加したいイベント

- 「文化財や歴史的に価値のある資産を活用しながら次の世代についでいくために必要だと思うこと」について、最も回答が多かったのは、「文化財等の価値や魅力を多くの人に知ってもらうという情報発信の取組」
- 「文化財や歴史的に価値のある資産に関連するイベント等の中で、参加してみたい取組」については、「文化財を巡るガイド付きツアー」が最も多かった。
- 10~30代は「体験型イベント」、40~70代以上は「文化財を巡るガイドツアー」の回答が多く、年代別の傾向がみられたところ。

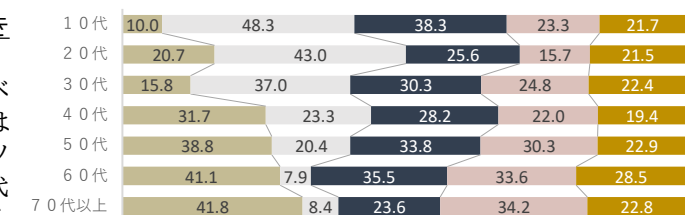
■文化財等の継承・活用のために必要な取組（R5上位5項目）（%）（3つまで回答）



■参加したい文化財等に関連するイベント（R5上位5項目）（%）（3つまで回答）



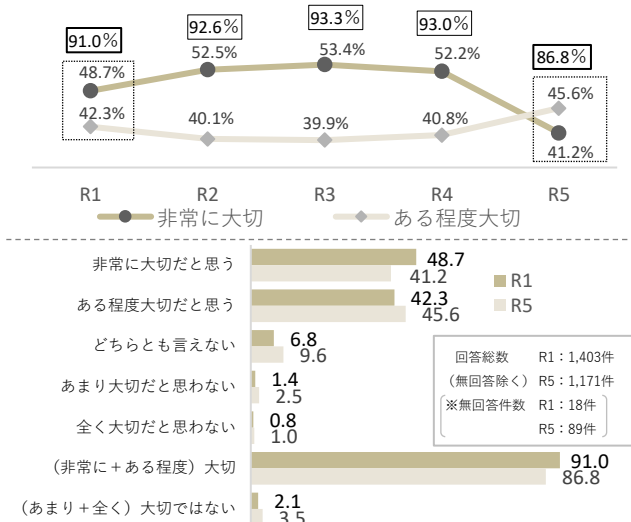
■参加したい文化財等に関連するイベント年代別構成割合（R5上位5項目）（%）（3つまで回答）



■文化財等の保存・活用する取組を大切だと思う人の割合

ウ 文化財等を保存・活用する取組の重要度

- 文化財や歴史的に価値のある資産を保存・活用する取組を大切だと思う人（「非常に大切」「ある程度大切」）の割合は、令和5年度で86.8%
- 前年度（令和4年度）と比較して、約6.2p減、計画策定前（令和元年度）の91.0%と比較すると、約4.2p減。
- ほぼすべての年代で「非常に大切」だと思う人の割合が減少。



○ 取組の進捗状況

第1期計画の第6章に記載した「文化財の保存・活用に関する措置」の取組状況を、Actionごとに記載

ア Action1 みつける 「調査・把握」の課題に対する取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 市民ワークショップを開催し、「関連文化財群とストーリー」の設定 景観要素（建造物）について、市指定・国登録の該当可能性の調査実施 「札幌市地域文化財認定制度」を創設し、「地域文化財」を認定
検証	<ul style="list-style-type: none"> 今後も市民等と連携し、幅広い文化財を掘り起こす取組の継続が必要 無形要素の文化財など、他の類型の文化財に関する調査手法の検討等が必要

イ Action2 共有する 「共有・発信」の課題に対する取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 「札幌市文化財データベース」を構築し、令和2年度からインターネットで公開 文化財を紹介する冊子「札幌の文化財」を更新・「札幌の文化財めぐりMAP」を作成 シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」を開催
検証	<ul style="list-style-type: none"> 文化財情報を公開する文化財データベースの公開を継続 「さっぽろれきぶんフェス」の開催を継続と内容の検討が必要 文化財等の指定登録や認定の状況を踏まえて、「札幌の文化財」等の更新が必要

ウ Action3 伝える 「保存・伝承」の課題に対する取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 文化財施設の計画的修繕、耐震改修工事・保全工事や防火対策を実施 文化財防災対策として「文化財防火デー」の周知と防火デーに合わせた消防訓練の実施 無形文化財等の保存・伝承事業への補助金交付
検証	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な維持修繕や耐震改修・保全工事、防火対策強化を引き続き実施 文化財の被害を最小限にとどめるための初動対応の整理、救援・復旧体制の検討 地域の保存会等が管理運営する郷土資料館の支援策検討

エ Action4 活用する 「活用」の課題に対する取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 「関連文化財群とストーリー」を活用した「モニターツアー」を実施 「関連文化財群とストーリー」のPRと周遊促進のため、パンフレットを作成・配布 札幌の文化財や歴史文化等に関するボランティアガイド講習会を実施 郷土資料館支援の手法として、郷土資料館を紹介するパンフレット作成
検証	<ul style="list-style-type: none"> 関連文化財群等を活用してもらうためのPRが必要 多くの方が郷土資料館を認知し、興味関心を持ってもらうための支援策の検討が必要

オ Action5 つながる 「連携・協働」の課題に対する取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 会員を札幌市、札幌商工会議所、札幌観光協会とする札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会を設置 市民ワークショップ、シンポジウム、モニターツアーにて、文化財に関わる関係者交流機会を創出
検証	<ul style="list-style-type: none"> 文化財の保存・活用に関する新たな取組につながるような仕組みの検討までには至らなかった。 協議会の事業を継続し、札幌市の文化財等を後世につなぐための持続可能な協議会体制の検討が必要

○ 総括

- 計画策定前と比べ、文化財等を保存し活用していく取組を大切だと思う人の割合が低下し、文化財関連施設利用者数も、一部の文化財を除き、減少という結果に。
- 文化財の価値や札幌の歴史文化の魅力を、効果的に周知・広報できていなかったことが一因と考える。
- 文化意識調査では、「情報発信」が、文化財等の継承・活用のために必要な取組として、最も多くの回答を集めた。
- 第2期計画では、世代別の需要に応じた魅力ある取組を実施や、歴史文化の価値を市民とともに発見し、札幌の魅力資源として総合的に保存・活用するための枠組みとして設定した「関連文化財群とストーリー」を、より効果的に活用するための情報発信を行っていく（第6章に掲載した取組「関連文化財群とストーリー」のPRと活用」等により実施する。）。
- 文化財等を次の世代への継承するためにも、特に子どもを対象とした取組を意識して実施する。
- 現行計画で把握した課題への取組も、検証により把握した課題等を踏まえて、今後も継続して取り組む。
- 第1期計画期間中に具体的な検討や実施まで行えなかったもの（災害対応体制の検討、文化財等の関係者同士のネットワーク構築等）についても、順次、検討・実施する。

4 目指す姿と基本方針

【目指す姿】

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

（目指す姿の具体的なイメージ）

多くの市民が、文化財を通して札幌市の特性や自分たちが住む地域の魅力を理解し、それを誇りとして、次の世代に伝え、札幌市を訪れた人に語れるようになっています。

5 保存・活用の課題

文化財の保存活用の現状、第1期計画の取組の評価検証により、**札幌市の文化財の保存・活用の課題と方針を右のとおり整理**

基本方針1

文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める
市民が大切に守り伝えてきた札幌の歴史文化を映す様々な文化財の価値を知り、魅力を広め、まちづくりの貴重な資源として見い出します。

基本方針2

社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える

文化財を中心に多様な関係者がつながり、新たな手法やアイデアを取り入れながら、社会全体で文化財を生かし、その価値を保ち、未来へ残します。

課題

調査・把握	文化財に関する継続的な把握調査と追跡調査が必要
共有・発信	文化財や歴史文化に関する情報発信の充実が必要
保存・伝承	文化財の適切な維持・保全や防災対策が必要 文化財の保存・伝承を行う担い手支援が必要
活用	文化財を活用した様々な取組が必要
連携・協働	文化財の保存・活用に関する連携・協働体制の整備が必要

Action1
見つける

調査・把握の課題に対する取組

（方針）文化財や周辺環境を掘り起こし、歴史文化の新たな価値を発見する

Action2
共有する

共有・発信の課題に対する取組

（方針）文化財の価値や歴史文化の魅力を、社会全体で共有する

Action3
伝える

保存・伝承の課題に対する取組

（方針）文化財の価値を保ち、歴史文化の魅力を、次の世代へ引き継ぐ
（方針）文化財の保存・伝承を行う担い手支援の検討・実施

Action4
生かす

活用の課題に対する取組

（方針）文化財を観光や地域振興、教育など、まちづくりの魅力資源として使い、生かす

Action5
つながる

連携・協働の課題に対する取組

（方針）行政、市民、企業等の事業者、研究者や専門家が連携・協働する体制を作る

第6章 文化財の保存・活用に関する取組

1 保存・活用に関する取組

○ 取組についての考え方

今後、様々な分野で文化財を活用しながらその適切な保存を図るために、文化財の価値や魅力に関する市民理解を前提とつ、文化財の特性に応じた次の二つの考え方を踏まえ、取組の検討を行う。

ア 札幌の歴史を伝え、来訪者を魅了する都心エリアの文化財

イ 市民のふるさと意識を育む各地域の文化財

○ 取組の概要

各方針に基づいて実施する文化財の保存・活用に関する取組を記載

主な取組	
Action1 見つける 「調査・把握」の課題に対する取組	・文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ ・札幌市地域文化財認定制度の継続
Action2 共有する 「共有・発信」の課題に対する取組	・シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催 ・札幌市文化財データベースの公開と維持・管理
Action3 伝える 「保存・伝承」の課題に対する取組	・文化財等施設の効率的な維持・保全 ・文化財の防災・防犯対策 ・無形文化財の保存・伝承支援
Action4 生かす 「活用」の課題に対する取組	・「関連文化財群とストーリー」のPRと活用 ・郷土資料館支援の手法検討・実施
Action5 つながる 「連携・協働」の課題に対する取組	・札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営 ・関係者と経済観光団体等の交流機会創出

2 計画推進の指標

計画推進に当たっての指標を次のとおり設定

指標	令和5年度 (2023年度)	令和11年度 (2029年度)
文化財等の保存・活用の取組が大切だと思う人の割合	86.80%	90%以上
文化財等関連施設(※)利用者(観覧者)数	570,751人	580,000人

※ 時計台、豊平館、旧永山武四郎邸及び旧三菱鉱業寮、八窓庵、琴似屯田兵村兵屋跡、清華亭、旧黒岩家住宅、新琴似屯田兵中隊本部、札幌村郷土記念館、丘珠縄文遺跡、旧札幌控訴院庁舎（札幌市資料館）

3 計画の検証

- 「札幌市文化意識調査」の結果分析、取組の進捗状況を随時把握し、計画全体の進行管理を行う。
- 文化財保護審議会への報告及び意見聴取を随時行い、次期計画改定時には各Actionの取組状況やその関連性、課題の改善状況等について、改めて総括、検証
- 関連する計画の方向性や社会情勢の変化等も踏まえて、次期の取組に反映
- 著しい情勢の変化により計画の内容が実情にそぐわないと認められるときは、計画期間内において一部内容の見直しを検討

第7章 札幌市の関連文化財群

- 第1期計画期間中に設定した関連文化財群の概要等を記載

関連文化財群1	札幌の都市軸となった慶応2年のインフラ「大友堀」－亀太郎の精神と「札幌黄」の隆盛	
概要	島が札幌の南北軸とした「大友堀」は、慶応2年（1866年）に、箱館奉行の直営農場のための用排水路として大友亀太郎によって開鑿されたもの。幕末のインフラは、後に札幌産タマネギ「札幌黄」の生産にもつながりました。	
構成文化財	大友堀跡、創成川、札幌黄、丘珠獅子舞、札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡 など	創成川
関連文化財群2	浮かび上がる「開拓使」の遺産－札幌のまちづくり・ものづくり	
概要	近代国家を目指す明治時代の日本にとって、北海道を開拓し、その資源で産業を興すことはきわめて重要なことでした。そのための国の機関が「開拓使」です。札幌市街地を歩くと近代化の揺り籠ともいえる役割を果たした施設群に触れることができます。	旧札幌農学校演武場（時計台）
構成文化財	北海道庁日本庁舎（赤れんが庁舎）、北3条通、旧札幌農学校演武場（時計台）など	
関連文化財群3	札幌軟石4万年の旅－地史を揺るがす大噴火から「カワイイ」まで	
概要	札幌軟石は、約4万年前に起きた支笏火山の大噴火による火砕流が冷え固まったものです。明治時代以来、建築材料として使われたのはもちろん、採掘や運搬の歴史においても大きな軌跡を残しています。	旧札幌控訴院庁舎
構成文化財	旧石山郵便局（現・ぼすとかん）、旧札幌控訴院庁舎（札幌市資料館）、石山緑地 など	
関連文化財群4	縄文と札幌－さっぽろの縄文を追う	
概要	私たちが暮らす北の大都市「札幌」のまちなかにも、その足元には、たくさんの縄文遺跡が埋もれていて、今の私たちの暮らしは、まさにその上に築かれています。	N30遺跡出土品
構成文化財	N30遺跡、札幌市N30遺跡出土品、丘珠縄文遺跡（H508遺跡）、丘珠縄文遺跡（H508遺跡）出土品など	
関連文化財群5	「札幌オリンピック」の遺産が伝える近代都市への歩み－五輪によって新たにデザインされたまち・札幌	
概要	札幌市がアジア初の冬季オリンピックを開催した背景には、明治から昭和にかけて、スキーやスケートがウインタースポーツとして市民に定着していった歴史があります。オリンピックの開催は、札幌のまちが変わるきっかけとなりました。	旧大倉ジャンツェ
構成文化財	旧大倉ジャンツェ、パラダイス・ヒュッテ、空沼小屋、聖火台、五輪大橋、さっぽろ地下街 など	
関連文化財群6	札幌の季節を満喫する－自然と人が織りなす豊穡な四季	
概要	冬は氷点下の気温が続き、夏は30度を超える日も珍しくない札幌は、四季がはっきりしていると言われます。その楽しみをさらに深め盛り上げるのが、人の営みと、いつもどこかで開催される多彩な祭りや行事です。	大通公園に咲くライラック
構成文化財	円山原始林、ライラックまつり、札幌まつり（北海道神宮例祭）、中島公園、さっぽろ雪まつり など	
関連文化財群7	雪や水と共にある暮らし－厳しい冬を克服し、利用し、楽しむ	
概要	札幌は1年の約3分の1が冬日（最低気温が氷点下）で、ひと冬の降雪量は約5m。これほど多くの雪が降る大都市は、世界でも珍しいと言われています。この厳しい寒さと雪を、先人たちはさまざまな知恵で克服し、利用し、楽しんできました。冬の暮らしから生まれ、受け継がれてきた独特の習慣や文化もまた、私たちの文化財なのです。	ササラ電車
構成文化財	開拓小屋、三角屋根コンクリートブロック造住宅、ササラ電車、札幌大球、さっぽろ雪まつり など	

関連文化財群の課題・方針（一部）

各関連文化財群の課題・方針と関連する取組を整理

課題	方針
市が所有する文化財等施設について、適切な日常管理、計画的な保存修理が必要	市が所有する文化財等施設の中・長期計画に従った保全工事・耐震化を行う。
関連文化財群を知ってもらい、活用してもらうための十分な情報発信が行えていない。	効果的なPRにより「関連文化財群とストーリー」の認知度を高める。